

## 令和2年度第1回広島県県営林管理経営評価委員会における委員の質問・意見（概要）

- 1 日 時 令和2年8月27日（木） 14時00分～16時00分
- 2 場 所 広島市中区基町10-52 県庁本館4階海区委員会室
- 3 議 案 第1号議案：令和元年度県営林年度実施計画の達成状況について  
第1号議案について審議の結果、令和元年度県営林年度実施計画の達成状況については、諮問のとおり承認された。

### 4 委員からの主な質問・意見（○質問 ●回答 ◎意見）

#### （1）第1号議案：令和元年度県営林年度実施計画の達成状況について

- 立木販売の実績をヘクタール当たりの材積に換算すると、計画と実績の数字が乖離しているがその理由は何か。
- 事業計画は、一昨年度に策定した第2期中期管理経営計画及び昨年度末に作成した年度別計画に基づいて作成している。立木販売のヘクタール材積については、これまで取り組んできた第1期中期計画期間中の立木販売実績の平均値を基に算出している。令和3年度計画については、次回の評価委員会でお諮りしたい。
- 令和元年度の収支計画と実績について、利用間伐の販売管理費（調査費・販売促進費）が計画に対し実績が大きく増加している理由は何か。  
また、営業外収益が4,272万1千円増加し、その主な理由として分収金の増加に伴う前年度繰越金の増とあるが、営業外収益増加分の金額内訳を教えてください。
- 販売管理費のうち調査費は、地元調整などが当初の想定よりも多く業務が発生したため経費が増加した。  
販売促進費は、有利販売を行うための交渉に要した人件費や交通費が増加した。流通経費を削減し、有利販売のコストに充当することで、売上高の向上に繋がっている。  
また、営業外収益については、計画時点での分収金は前年度となるので見込額を計上しているが、実績では売上高が上がった金額となるため、その差額分が約3,000万円増加した。この他、補助率の高い有利な補助事業を活用したことによる補助金の増加が約1,000万円で、合わせて約4,000万円増加している。
- 県営林中期管理経営計画では、利用間伐の計画は、平成30年7月豪雨災害を踏まえて、令和2年度まで規模を250haに縮小し計画をしているが、コロナウィルス感染症の影響や、本年7月の豪雨災害の影響を考慮すると、令和3年度以降は、事業量を280haに戻すのか。
- 平成30年7月豪雨災害の復旧が着実に進んでいることから、県営林中期管理経営計画どおり実施できる見込みでいたが、本年7月14日の豪雨災害で林道等が被災し事業に影響が出ていることや、コロナウィルス感染症の影響により木材需要に影響が出ていることから、令和3年度事業量については、今後の市況や状況を注視しながら判断したい。

- 保育間伐の計画が 200ha に対し、実績は 165ha と計画を下回っているが、将来に向けて、影響は出てこないのか。
- 令和元年度に保育間伐した箇所は、現地調査の結果や補助事業の対象年齢を勘案し、必要な箇所は全て実施している。年度計画で未実施の部分については、次年度以降、実施することとしている。

- バイオマス材の需要は高まっているようだが、用材の需要はどのような見通しか。
- 4月以降、合板工場で木材の受け入れ制限が、また一部の集出荷施設等でも一時的に出荷制限がかかったと聞いている。そうした中、県営林では、販売努力やこれまでの取引実績から出荷制限はかからなかった。

現在、7月の九州豪雨災害の影響により一時的に需要が増加しているが、長期的には続かないと見ており、秋以降の需要は不透明なことから、今後の動向を細かく注視したい。

- ◎ コロナウィルス感染症の全国的な影響について、個人的な考えとなるが、来年に向けて住宅着工戸数は若干減るのではないかと考えている。これから、所得の減少や雇用の関係が厳しくなる可能性があり、今年よりも来年の方が厳しくなるのではないかと考えている。

## (2) 第2期県営林中期管理計画の対応状況について

- 現地調査における先進技術の活用について、ドローン調査と地上調査の検証結果（本数）に約5%の誤差がでていますが、原因は何か。
- ドローン調査では、被圧されている副林木の樹頂点が拾えきれないこともあり、5%程度の誤差が発生している。

- ドローン調査の本数誤差が今後も同様に5%程度の結果となれば、活用の見込みがつくことになるのか。
- ドローン調査の本数誤差が5%程度であれば、材積はもっと良い精度となるのではないかと考えている。送電線の近いところは、GPSが影響を受けやすいのでドローンを飛ばせないが、送電線がないところは、ドローンで撮影して全数をカウントし、精度の高いデータにより入札を実施したい。

- 2事業地において林業専用道の開設に取り組んでいるが、林業専用道による効果、また課題は何か。
- 集材コストが削減や、大ロットな出荷が可能となるといったメリットがある。また、向イ山黒滝事業地は大規模な事業地であるため、安定的に事業を実施できるといったメリットもある。  
一方で大規模な事業地では、間伐の実施と合わせて路網を数年間使用することとなるため、維持管理の問題が発生すると考えている。

- ◎ 国有林、県営林、民有林との連携について、協調施業や路網の相互利用など、連携できる事業地があれば、是非協力したい。